令和4年度キャンパス創造プロジェクト活動報告

石川源一*、挾間雅義*、荒川正幹*

Report on Activities for the Campus Creation Project

Gen'ichi Ishikawa, Masayoshi Hasama, Masamoto Arakawa

Abstract: In 2022, National Institute of Technology, Ube College celebrated its 60th anniversary. As part of the 60th anniversary commemorative activities, the Academic Information Center embarked on the relocation of numerous historical materials within the campus. At the same time, the Academic Information Center, including newly established Ube College Library student volunteers, participated. This report documents the proposed renovations for internal and external users and outcomes of the implementation.

1. はじめに

本論文では、令和 4 年度に実施した、「高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクト」における活動を報告する。このプロジェクトは、令和 4 年度に国立高等専門学校機構が実施したものである。プロジェクト予算は 100 万円、実施期間は令和 4 年 4 月から 12 月までであり、学生の参加が必須とされている。募集要項において示された事業目的を以下に示す。

> 本事業は、学生の学びを刺激するキャンパスと愛着心の向上や、地域社会や企業が親しめる高専への深化及び地域の中学生やその保護者が興味・関心を持つきっかけを醸成するための、魅力あるキャンパス環境の創出を目的として実施するものである。
>
> 高専キャンパスを素材としたイノベーション教育として、高専生の創造力を活かして、特色ある学習フィールドを、学生主体で創出し、学修者本位の教育を体現するキャンパス創造プロジェクトである。

宇部高専は令和4年度に創立60周年を迎えることから、記念講演会などのイベントを計画しており、その一環としてこのプロジェクトを利用した学内のリニューアルを実施した。テーマは「Re: Innovation ～資料展示室移設・図書館等リニューアル～」である。資料展示室とは、創立50周年時に設置された50周年記念資料室のことであり、本校に関する歴史的な資料が収集、展示されていた。この資料展示室内の資料を移設し、同時に図書館棟をはじめとする校内のリニューアルを行うことが本事業の目的である。予算規模はプロジェクトの 100 万円に、学内予算約 200 万円および後援会である宇部しらとり会からの寄付約 50 万円を加え、計約 350 万円である。

(2024 年 1 月 22 日受理)
*宇部工業高等専門学校

事業の実施にあたっては学内の多くの部署が関連するため、校長をトップとしたワーキンググループを組織し、計画の確認や各種の調整を行った。具体的な計画の立案や実施については、図書館学生ボランティアおよび学術情報室、企画連携事務室企画係が担当した。学術情報室は、図書館と情報処理センター、50 周年記念資料室を所管する部署であり、室長および副室長 2 名の計 3 名の教員が所属している。令和 4 年度においては、室長が挾間、副室長が石川と荒川であった。

以下の章においては、まず図書館学生ボランティアについて紹介したのち、今回リニューアルを実施した場所ごとにコンセプトや実施内容などを示す。

2. 図書館学生ボランティア

キャンパス創造プロジェクトにおいては学生の参加が必須であるが、本事業においては、図書館学生ボランティアの学生が中心となって活動を行った。

図書館学生ボランティアは、図書館に関連する活動を行うことを目的とする学生の集まりであり、令和 3 年度まで設置されていた学生図書委員会を発展的に解消することで、令和 4 年度に新たに発足した。年度当初に全学生を対象として参加者を募集した結果、令和 4 年度においては 22 名となった。学術情報室の教員および図書館担当の企画係員の指導のもと、図書館の利用促進を目指した様々な活動を実施した。

令和 3 年度までは、クラス委員のように年度当初に各クラスに対し 1 名の学生図書委員の選出を依頼していた。しかし、必ずしも図書館に興味のある学生が図書委員になるとは限らず、また同じクラスから複数の図書委員を選出することも不可能であった。図書館学生ボランティアの仕組みを作ることで、これらの問題が解決され、より有意義な活動が効率的に実施できるようになったと考えられる。

本事業を実施するにあたり、令和 4 年 4 月から令和 5 年 1 月までの間に、計 14 回の打ち合わせを実施した。指導においては、学生の主体的な活動に重点を置いた。最初の打ち合わせでリーダーと副リーダーを決定し、その後は打ち合わせの日程調整、資料

の準備、会議の進行などを含め、可能な限り学生に任せ、教職員のサポートは最低限とした。

4 月から 6 月頃までは、主に計画・立案を行った。どのようなコンセプトでリニューアルを実施するのか、50 周年記念資料室の資料をどこに移設するのか、閲覧室をどのようにすれば利用者が増えるのか、といったことを繰り返し議論し素案を作成した。その後、ワーキンググループからの意見や指摘を取り入れながら計画を具体化し、8 月には概ねリニューアル内容を確定し、順次実施した。

打ち合わせを重ねる中で、学生から、図書館のリニューアルに関する情報収集のため他の図書館を見学したいとの希望があり、山口大学工学部図書館を視察した。参加者は学生 8 名および教職員 2 名である。本図書館は令和 3 年 7 月に改修が行われており、その現代的な内装やインテリア、鮮やかな色を使って区分けされた書庫などは、本事業を進めるにあたって大いに参考となったとのことである。図 1 に視察の様子を示す。

図 1　山口大学工学部図書館の視察

3.　実施報告

3.1.　リニューアルの概要

本事業の目的は、図書館の利用促進に向けて、学生が主体となって理想のキャンパスを創造することであり、図書館学生ボランティアの意見を反映する形で多くの改修を実施した。

全体的なコンセプトは、学内外の利用者に向けた宇部高専の過去・現在・未来の表現である。管理棟 1 階玄関は、来校者を迎える際に宇部高専の過去・現在・未来を伝える場所、図書館棟 1 階は学内利用者が宇部高専の過去と現在を確認しながらくつろげる場所、図書館閲覧室は学内外利用者が宇部高専の歴史を感じることのできる場所、というコンセプトをそれぞれに持たせた。各箇所にコンセプトを持たせることで、キャンパス全体を通して宇部高専の魅力を体感しながら、学生の持つ自由な発想を現代的なアプローチで表現することができた。

本事業においてリニューアルを実施したのは、主に図書館棟 1 階、図書館閲覧室、管理棟 1 階玄関である。以下、各場所についてその内容を紹介する。

3.2.　図書館棟 1F

図書館棟 1F に、ブックリサイクルコーナーを設置した（図 2）。学生も教職員も、ここに置いてある本は自由に読んだり、家に持ち帰ったりすることができる。一方で、読み終わった本、不要となった本、他の人に読んでもらいたい本などをここへ持ってきてもらう。これにより、読み終わって不要となった本が廃棄されることなく、有効に再利用されると期待できる。また、ブックリサイクルコーナーの前に机と椅子、フェイクグリーンを設置し、待ち合わせ等に利用する際の利便性を向上させた。これら椅子の種類や色についても学生が選定し、配置した。なお、ブックリサイクルコーナーの本棚については、図書館閲覧室で以前使用していたものを再利用した。

図 2　ブックリサイクルコーナー

図書館棟 1 階多目的実習室前は、主に部活動による成果物を展示する場所とした（図 3）。これらは、以前管理棟 1 階玄関に展示されていたものである。図書館棟 1 階は、学外利用者が図書館へ行く際の通路としても使用されるため、宇部高専の栄光の歴史を展示するにふさわしい場所である。

また、図書館棟 1 階は全体的に淡い色調が多用されていたため、各区画の柱を明るく印象に残る色へと塗り替え、活動的な宇部高専の雰囲気を表現した。

図 3　部活動成果物展示コーナー

3.3.　図書館閲覧室リラックスコーナー

図書館学生ボランティアの打ち合わせの中で、閲覧室内にゆっくりとくつろげる空間があれば図書館の利用が促進されるとの意見が出たため、あまり活用されていないスペースをリラックスコーナーへと改修した。図 4 に、完成したリラックスコーナーの様子を示す。

床材が色あせていたため、まず床材の貼り直しを検討し実行した。全国の図書館などの写真を参考に、床材の種類や色のパターンについて話し合いを繰り返し、最終的に暖色を基調としたモザイクパターンを採用した。

床材の貼り替えは、利用者の少ない夏休み期間に実施した。職人のアドバイスに従いながら自身の手で直接床材を剥がし、新たな床材を貼ることで、理想のキャンパスを直接作っている実感を得ることができた。

リラックスコーナーには、ボランティアが選んだ多種多様な椅子を配置した。リラックスを目的とした場所に相応しい椅子をコンセプトに、ロッキングチェアやキューブ型の椅子、クッションビーズを選定した。

今回のリニューアルにより、図書館閲覧室内にリラックスして読書等を楽しめる空間を創造することができた。これをきっかけに図書館の利用者が増えることを期待する。

図 4　図書館閲覧室リラックスコーナー

3.4.　図書館閲覧室歴史コーナー

50 周年記念資料室内の資料を移設するにあたって、学内外の利用者が自由に閲覧できる場所を検討した結果、図書館閲覧室内に歴史コーナーを新設し、そこに資料を展示することとなった（図 5）。記念資料室に展示、保管されていた資料を確認し、歴史コーナーに展示するに相応しい資料を選定し陳列した。これにより、歴史コーナーは本校の 60 年という長い歴史を知ることができる貴重な場所となった。

図 5　図書館閲覧室歴史コーナー

3.5.　管理棟 1F 玄関

宇部高専の玄関として重要な役割を担っている管理棟 1 階玄関は大幅なリニューアルを行った。

まず来校者を迎える場として宇部高専の過去・現在・未来を表現するため、入り口左側に 540cm×180cm のモザイクアートを設置した。このモザイクアートは学生、教職員から募集した宇部高専に関する約 15 万枚の写真から厳選された 3 万枚の写真を使い、1 枚の大きな風景写真を表現したものである。モザイクアートの中に書かれている「夢があるからここにいる」という言葉は、図書館学生ボランティアが考えたものである。図 6 にモザイクアートの全体像を、図 7 に一部を拡大した図を示す。1 枚の写真のサイズは縦 20mm、横 15mm である。

入り口右側には、宇部高専の 60 年間のあゆみ記したパネルを展示し、宇部高専の過去を表現した。更に正面奥には宇部高専の玄関を華やかかつ荘厳に彩る柱時計を設置した（図 8）。これは、本校の同窓会である宇部しらとり会より寄贈していただいたものである。

図 6　モザイクアートの全体像

図 7　モザイクアートの拡大図

図 8　柱時計

4.　高専機構理事長賞の受賞

「高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクト」は、全国の各高専で実施されており、その内容は事業報告書によって機構本部へ報告された。報告書の内容に基づき審査が行われ、特色があると認められた高専は機構理事長から表彰される。本校の取り組みは、米子高専、有明高専とともに特色があると認められ、表彰を受けることとなった。

令和 5 年 2 月 28 日にオンラインで表彰状授与式が行われた。その様子を図 9 に示す。図書館学生ボランティアの代表が賞状を受け取り、「このプロジェクトを通して物事に取り組む姿勢を学び、プロジェクトを成功に導けた。今後の人生において自信をもって夢と向き合う糧になると思う。」とコメントを述べた。谷口功理事長からは、「学生がこのプロジェクトを通して自分たちの力を表現して生き生きと活動したことを、とても誇りに嬉しく思う。今後も自信を持って、世のため人のため、ひいては自分自身のために、活動を続けていってほしい」との言葉があった。

図 9　表彰状授与式の様子

5.　おわりに

今回このプロジェクトを成功に導くことが出来たのは、積極性と主体性に溢れた図書館学生ボランティアの活躍があったからである。発足当初の打ち合わせでは、緊張もあり互いに発言を譲り合うような場面も見られたが、打ち合わせを重ねる中で意見を出し合いながら互いのアイデアを昇華させ実現させていく姿は、高専教育が目指す理想的な形であった。学年や学科の枠に囚われず、図書館に興味を持つ学生が集まり協力したことで、大きな成果をあげることが可能となった。

今回のプロジェクトは、学生の課題探求能力、共同型問題解決能力、実践的な行動力の育成に繋がったと言える。日常的に利用しているキャンパスを更に利便性の高いものにするための改善点を見つけ出す課題探求能力、見つけ出した課題に対して学年学科を超えた話し合いを経て解決策を発案する共同型課題解決能力、そして可能な限り直接解決策に関わり作業を行う実践的行動力、これらは実践的エンジニアを養成する宇部高専の教育目標に相違ない。学年や学科を超えて協働したことは、将来学生が技術者として社会で活躍するための基盤となると期待される。

謝辞

本事業に多大なご支援を頂きました和田祐子様、柿並綾乃様、佃友里様、ワーキンググループの皆様、宇部しらとり会の皆様に重ねて御礼申し上げます。